

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和8年 5月15日

（宛先）高崎市長

提出者

住 所 群馬県高崎市吉井町神保 1295

氏 名 東京精密管株式会社

代表取締役社長 三木 成道

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 027-387-3131

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	東京精密管株式会社 本社工場
事業場の所在地	群馬県高崎市吉井町神保 1295
計画期間	令和8年4月1日から令和9年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	2237 引抜鋼管製造業
②事業の規模	1694 百万円（令和8年2月決算）
③従業員数	72 人
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	<div>廃酸 — 中和（委託） — 焼却溶融（委託） — 路盤材（委託） 管理型埋立（委託）</div> <div>高崎市 - 8.5.15 受領</div>

（日本産業規格 A列4番）

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

統括責任者

総務部長

廃棄物管理責任者

製造部長

製造部次長

作業係長

・産業廃棄物の処理に関する方針の決定

・行政への報告

・委託契約の締結

・廃棄物処理計画の作成

・処理業者の選定

・統括責任者への報告

・作業現場の廃棄物の管理

・種類分別の管理

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状

【前年度（令和7年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類

PH 2.0. 以下の廃酸

排出量

269.3 t

t

(これまでに実施した取組)

○洗浄薬品量の削減を実施

○酸液の交換回数の削減を実施（生産量比）

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類

PH 2.0. 以下の廃酸

排出量

300 t

t

(今後実施する予定の取組)

○上記事項の継続

○超音波を利用した洗浄により酸液の有効期間の延長

○工程の削減

○排水処理設備の強化

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

産廃：酸液は専用配管にて専用の廃酸貯槽に回収

②計画

(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

上記事項の継続

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行った 特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	PH 2.0.以下の廃酸	
	全 処 理 委 託 量	269.3 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	150.4 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	118.9 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
	○洗浄薬品量の削減 ○酸液の交換回数の削減 ○超音波を利用した洗浄により酸液の有効期間の延長		

②計画	【目標】		
	特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 の 種 類	PH 2.0.以下 の廃酸	
	全 処 理 委 託 量	300 t	t
	優 良 認 定 処 理 業 者 へ の 処 理 委 託 量	150 t	t
	再 生 利 用 業 者 へ の 再 処 理 委 託 量	150 t	t
	認 定 熱 回 収 業 者 へ の 処 理 委 託 量	— t	t
	認 定 熱 回 収 業 者 以 外 の 熱 回 収 を 行 う 業 者 へ の 処 理 委 託 量	— t	t
	(今後実施する予定の取組) ○超音波を利用した洗浄により酸液の有効期間の延長 ○工程の削減 ○排水処理設備の強化		
電子情報処理組織の 使用に関する事項	【前年度（令和7年度）実績】		
	特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 排 出 量 (ポ リ 塩 化 ビ フ ェ ニ ル 廃 棄 物 を 除 く 。)	269.3 t t	
	(今後実施する予定の取組等)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が 50 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物の海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第 6 条の 14 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第 2 条の 4 第 5 号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が 50 トンを超える者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第 8 条の 31 の 4 に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。